

第2回「(仮称)泉南市認知症条例」制定に係る検討委員会 議事録

| | | | |
|--------------|---|----|----------------------------|
| 日時 | 2024年5月22日(水)13:30~15:30 | 場所 | 泉南市総合福祉センターあいびあ泉南 3階研修室1・2 |
| 出席者 (敬称略) | 【病院地域医療連携室相談員】有本 弥生・青木 元明 【泉南市ケアマネジャー連絡会】古谷 亜紀子 【泉南市介護サービス事業所連絡会】奥 加奈子 【認知症対応型共同生活介護事業所】篠原 カヨ子 【認知症当事者】森井 洋一郎 【認知症当事者の家族】森井 文乃・伊藤 哉柄 【泉南市いきいきネット相談支援センター】林 信好 【泉南市地域包括支援センター】佐藤 剛 【学識経験者】永田 久美子・中島 民恵子 【泉南市】谷村 真理子(障害福祉課)・田村 卓也(政策推進課)・幸前 弘樹(子ども政策課) | | |
| 事務局 | 【泉南市認知症地域支援推進員】野崎 健・原 美穂子・辻下 悦子 【泉南市長寿社会推進課】藤原 秀紀・西村 信子・安倉 晃平(兼認知症地域支援推進員)・有本 稀己・藤原 慶子 | | |
| 配布資料 | 次第、委員会設置要綱、委員名簿、検討の流れ(案)、スライド『アクションミーティングと声カードの取組み～泉南市民の声を条例に～』、検討委員会事務局だより、地域版アクションミーティング・本人の声カード等 意見一覧(Excel)、第1回検討委員会 議事録 | | |

【1.開会】

西村) 本日は委員の過半数の方にご出席いただいておりますので、要綱に基づき会議の成立をご報告いたします。

(新委員自己紹介)

・介護サービス事業所連絡会 奥氏、いきいきネット相談支援センター 林氏、ケアマネジャー連絡会 古谷氏、泉南市政策推進課 田村氏、以上4名(社会福祉協議会 山崎氏 欠席)

(委員長挨拶)

○永田 久美子氏(学識経験者)

色々な立場の方が声を出して、一緒に条例を作り始めているところだと思います。委員からもそれぞれの立場の意見を出し、条例の方向性等を練っていかれたらと思います。

西村) ここからは委員長に議事進行をお願いします。

【2-1.「(仮称)泉南市認知症条例」の検討の流れの確認】

有本稀) 令和5年10月から令和7年3月までの予定を配布資料「検討の流れ(案)」に記載しています。前回の検討委員会では、委員の各立場から今後のまちづくりに関してイメージを共有する話し合いを行いました。話し合いでは、地域の方々の声を聞いて条例を検討していくという意見が出ました。それを受けて、事務局では本日までの約3ヵ月間で、本人・家族、地域の集いの参加者、専門職、ボランティアの方々の声を聞く取組みを進めてきました。今後は、子どもたちや事業者の方々の声も聞いていきたいと考えています。各委員の皆さんも意見を聞く機会があれば、ご協力をお願いします。

【2-2.「(仮称)泉南市認知症条例」の検討に向けたアクションミーティング・声カードの報告】

原) 地域の方々の声を聞く取組みについて報告します。取組方法は2つとし、1つは「アクションミーティング」、もう1つは「声カード」です。

「アクションミーティング」は、医療・介護の専門職が集まる会議や、地域の集いの場等の複数人が集う場で、「認知症の有無に関わらず、共に暮らしてするために、今後どんなまちにしたいか。自分にできることは何か。」について、話し合いを行う方法です。一人一人が思いつく限りのアイデアを付箋に書き出し、その後、グループでそれぞれの考えを共有します。

「声カード」は、事務局があらかじめ用意したカードに意見を書いていただく方法です。認知症のご本人と家族、認知症のご本人と接する機会の多い介護事業所の職員の方にご協力いただきました。

各立場の声の一部を紹介します。医療・介護の専門職からは、介護保険サービスとインフォーマルサービスの充実、安全に通じて道路、移動手段の確保、高齢者が必要な情報を入手できる仕組み、世代間交流の機会等のキーワードが出ました。ボランティアからは、傾聴、共に行動していくこと、人と人とのつながりや挨拶、認知症のことを深く学ぶ等が出ました。認知症のご本人からは、今のままが一番いい、施設には良くしてもらっている等の意見を多く頂きました。ただ、この言葉の裏には、家に帰りたいが家族には迷惑をかけたくない、という思いも感じられました。事業所職員からの本人の声の聞き取りについては、事前に、事業所向けに「意思決定ガイドラインに沿った本人の声を聴くことについて」の研修を希望制で実施しました。また、ご本人が落ち着いて本音を言えるような機会をとらえて実施していただくよう配慮をお願いしました。その上で、聞き取りを行っていただいた結果、普段聞けない話を本人から聞くことができた、本人の希望を聞くことの大切さを実感した、という感想をいただきました。

藤原慶)この取り組みから集まった声は572件(5月22日時点)であり、一覧を配布資料としています。この声をどのように分かりやすく分類して情報提供できるかを検討し、最後まで地域で自分らしく過ごすことが表現された地域包括ケアシステムの植木鉢の図を当てはめてみることにしました。その図に当てはまらない意見は、独自に分類項目を追加し、本人の希望は花に、笑顔ややさしさは水に、偏見をなくし理解を広めることは大気としてイメージを膨らませました。(配布資料と当日会場に掲示した模造紙で説明。)

永田氏、中島氏からは、このイメージ図について、事前に意見を伺い、分類項目については大きなイメージのフレーズ、「花から種が飛んで、また新たな花(希望)が咲く」という循環のイメージ、鉢植えにとどまらず、地植えて裾野が広がるイメージ等について提案を頂きました。皆さんからもこの図について意見をいただければ、と思います。

永田氏)一つ一つ丁寧に、カードや面談で思いを集めたり、国の考えてきたものだけではない図でイメージ化を図ったり、枠組みにとらわれず泉南市に合ったものを作ったりなど、今後も工夫を重ねて検討が続いていくと思います。

【2-3.それぞれの立場で、大切にしたいキーワード】

永田氏)委員の方々からも、本会議にあたり大切にしたいキーワードをあげていただいていると聞いています。まずはキーワードを共有して、その後に議論していきたいと思います。

○幸前 弘樹氏(子ども政策課)

キーワードの概念について色々と考えましたが、条例制定前の大切な思いと捉えてキーワードを考えました。

①当事者の目線②関係機関との連携③認知症に関する正しい知識④社会参加⑤相談できること

○田村 卓也氏(政策推進課)

政策推進課は、総合計画に掲げた政策等を推進する業務を所管しており、その立場から提案します。

①やさしい②まちづくり③活躍④意識改革⑤役割⑥住人十色

○谷村 真理子氏(障害福祉課)

①自分で(主体性)②個別性(その人らしさを理解する)③否定しない(喪失体験、失敗体験を支援する)④笑いたい 顔で、身体で、心で⑤一緒に

○佐藤 剛氏(泉南市地域包括支援センター)

両包括職員(13名)の意見を集約し、要約して包括職員の代表としてまとめました。

①安心・思いやり・寛容・希望②サポート、支える、共に支えあう③全ての世代、市民一人ひとり、みんなで④気軽に相談できる、胸を張って、恐れぬ⑤自己決定支援、自分で選ぶ、自分で判断して動いていく⑤WAO(忘れても大丈夫、安心と思いやりのまち 泉南)

○林 信好氏(泉南市いきいきネット相談支援センター)

最近、困難な問題への相談が増えていると感じています。その中でCSWとして感じるキーワードを提案します。

①出会い、学び合い②つながり続ける③気にかけてあうコミュニケーション④伴走、寄り添い⑤コーディネート

○篠原 カヨ子氏(認知症対応型共同生活介護事業所)

介護職の目線から、条例に入ったら嬉しいという思いで考えました。

①一日一笑、笑う門には福来る②心ある声かけ③心ある笑顔④認知症のある人が能力を発揮できる場所④交流の場

○奥 加奈子氏(泉南市介護サービス事業所連絡会)

①幼児教育から始める認知症への正しい理解を発信し続ける②自分らしくいるために考え方や生き方を聴く③高齢者の孤立を防ぐために地域や自治会で守る仕組みを作る④元気に働ける高齢者の活躍できる場所⑤専門職のスキルアップ

○古谷 亜紀子氏(泉南市ケアマネジャー連絡会)

①マンパワーの充実②介護施設の対応力の向上③介護保険外サービスの充実④徘徊を散歩と思える街⑤物忘れ外来等受診が気軽に受けられる

○有本 弥生氏・青木 元明氏(病院地域医療連携室相談員)

①必要な資源の情報提供②早期診療への体制づくり(初回診療予約期間の早期化等)③自分らしく生活する④刺激のある生活で進行を遅らせる⑤認知症は他人事ではなく身近なこと

○伊藤 哉柄氏(認知症の本人の家族)

皆さんと感じ方が違うかもしれませんが、提案します。

①近所の方へ家族からの積極的な告知②宿泊サービスの充実③施設と病院との連携強化④安心して預けられる場所④安心して働ける仕組みづくり

○森井 文乃氏(認知症の本人の家族)

①認知症でも働ける場所の確保②診断後制度等を説明してもらえる所③健康診断等で早期発見のための診断できるしくみ

○森井 洋一郎氏(認知症の本人)

普段自分が感じていることを発表します。

①名前ですんでほしい②本人が働ける仕組みづくり③家族へのサポート④単身者へ向けての入居施設整備

永田氏)一人一人に出してもらおうと、似ているものもありますが多様なものが多いと感じました。他の方の意見を聴いてお気付きの点等がありましたら発表をお願いします。

佐藤氏) 皆さんの意見を聴いて、自分は包括の立場からしか考えてなかったことに気づきました。当事者の方や家族の方から認知症であると告知する必要性があるというお話を受けて、告知は勇気のいることだと思うのですが、私たちに出来ることとしては、告知しやすい雰囲気をつくる地域づくり、社会づくりが大事だと感じました。

永田氏) オープンにしやすい地域づくり、言いやすい雰囲気づくり、地域社会づくりが大事であるという点が出てきたと思います。また、何があれば泉南市で暮らしやすくなるのかという、一人一人が当事者の目線に立ちながら考えるという点が多く、「本人目線」の大事さが改めて確認できたと思います。従来の制度やサービスの提供はもちろんですが、幅広く地域で暮らすには何が必要か、整理してみてもよいですね。認知症観を変えていくことで、生きやすさが違ってきます。認知症について新しい考え方が当たり前になると暮らしやすくなるという、イメージ図でいうところの「大気」に関連したキーワードが、皆さんから多く上がったと思います。ここで、キーワードを事務局で整理しますので、10分程度休憩を取ります。

(休憩)

永田氏) 未整理な部分がありますが、水や大気、花などのイメージ図の概念との繋がりを考え、分類しました。

※ボードに書き出したキーワードを大枠に分類して説明・確認 *以下、特筆すべきコメントについて記載

「もの忘れ検診」…もの忘れ検診の事業開始をきっかけに、早期の診療や気軽に受診できるようにしていくこと、本人や家族が本当の意味で安心できる仕組みにつながるようにしていく必要があります。診断初期の空白の時間は平均5年以上あると言われていたのですが、ある事例では、診断直後の元気なうちに地域の中で繋がりを作り、働ける場所や仲間と会える機会、情報収集の仕組み作りを進めているところもあります。

「コーディネート」…各分類を貫く概念として「コーディネート」が挙げられます。今まで国や様々な機関が自治体や団体へ支援を提供してきましたが、誰がつなげるのか明確でないために支援方法を準備しても本人や家族には届かない、あるいはバラバラに提供されてきた経過があります。また、コーディネートは、今までの制度にその重要性が位置付けられていないために重視されてこなかった概念だと思っています。

「徘徊を散歩と思える街」…泉南市の行方不明者数は年間0~3名程度と比較的少ないですね。安心して外出出来ることは本人の心と体の維持には非常に大事なことです。また、家族が安心して「いってらっしゃい」と言えて、家族が付いていなくても周りの人や地域の人への配慮や声かけてサポートできる方法もあるかもしれません。また同様に(お店等で)お金を払わず戻ってきても「この人のことは理解しているから大丈夫、また来てね」と言えるまち、認知症特有の症状に伴う行動などに対する配慮ができるまちをつくる必要性等もあるかと思っています。今回認知症の有無に限らずキーワードを出してもらっていますが、認知機能の低下などの認知症という特徴をみた時になにが必要か、ということも念頭に考えることも重要ではないか、と感じました。

「仕事」…今回、事前に作成した図に「仕事」という概念はなかったのですが、環境づくり、という視点もあれば、本人の自己実現という視点もあるので、図自体の見直しや表現についても検討が必要かもしれませんね。

「周りの人に告知しやすい街」…最近国でも「本人発信」や「当事者発信」というキーワードが提示されています。「声を出しやすい環境づくり」という内容を含む言葉も入れても良いと思いました。

条例に関する理念や、入れてほしいキーワード等幅広い内容が出てきたと思います。

森井さんが出してくれた「名前を呼んでほしい」という具体的な声がありましたが、これこそが人権が尊重される、という、国の基本法の理念にもある「人権」ということ、一人一人の個性とか名前が尊重される、大事な内容だと思います。皆さんの立場から条例に盛り込む内容として強化、重視すべきこと等がありますか？

森井洋氏) 僕は、先生も仰ってくださった「名前を呼んでほしい」を入れてもらいたいです。

永田氏) 子ども政策課 幸前さんはご自身のお立場からのご意見はどうですか？

幸前氏) 正しい理解・知識を得るという部分でいうと、小・中学校授業の一環から認知症の正しい理解を学んで貰うことも出来るかもしれないと思いました。また、今の子どもたちには「居場所がない」という問題があります。国からの指針やガイドラインでも課題提起されていますが、それを受けて今回私からは「社会参加」というキーワードをあげました。今回の皆さんからの話を聞いて、年代の関係なく集える場所や話ができる場所があればつながりを持てるかもしれないと思いました。

永田氏) ありがとうございます。泉南市ではすでに「認知症の症状や病気にこだわらず、認知症の人がどう暮らせるのか」について考えられる段階や土壌があると思うので、「認知症の理解」だけでなく、「認知症の人の理解を深めること」を大事にして貰えるといいと思います。国は 20 年前からサポーター養成講座で認知症の知識を深める活動を進めてきましたが、効果について調査したところ、病気や症状だけを伝えると「なりたくない」「症状が出て怖い」「自分はまだなってないから別の話」等、自分事として考えるのを先送りして備えが遅れる現状にあると言われています。

今回の条例策定にあたって当事者の参加があるように、認知症があっても地域で一緒に暮らしていける、生きる可能性が広がっていることを小学生くらいの子どもたちに学んで貰う機会があると良いですね。「忘れてたりするけどその人なりに楽しみもあって、子どもと一緒に過ごしたり一緒に活躍できる」「自分たちも認知症がある人も、同じ泉南市の一人」「自分たちも認知症の人を応援しよう、つながろう」という学びのきっかけが学校で生まれたらよいと思いました。

誰にとっても地域の中で居場所づくりが求められていて、今まで縦割りであったものが、子どもも認知症もミックスにして、泉南市の各区で、サンダル履きで行ける場所に居場所とか社会参加できる場所があれば素敵ですね。

田村氏) この検討委員会の意図や意見、プロセス等を参加していない市民の方へ理解してもらえるようにする必要性があると感じました。民間企業や事業所等、住民の理解や役割が大事になるので、いかに浸透していく働きかけができるかが重要になってくると感じました。

永田氏) 全ての分野に関わりがあるという点で、本日午前中に開催した庁内勉強会のような催しが条例策定後も継続開催できればよいと思いました。

谷村氏) 告知とか認知症をオープンにすることは、障害の分野でもすごく大事だと感じました。断絶されている現代社会だからこそ、改めて幼児教育の重要性にも気づきました。

永田氏) 他地域の取組事例として、①元気な時から「どちらが先に認知症になっても、お互いよろしく」と言い合える認知症講座②「出会い、学び合い」というキーワードにもあったように、森井さんのような一足先を行く先輩に学ぶ「認知症になっても大丈夫な仲間を増やすピアサポート」の取組み等が挙げられます。

佐藤氏) 色々な意見が出ましたが、まとめ方が難しいと感じました。また、完成した条例をどれくらいの市民が見てくれるのか想像してみましたが、興味や関心のない人にもどう届けられるのかを意識した内容づくりの必要性を感じました。

永田氏) 大事な視点です。条例は策定するだけでなく生かしてなんぼのものだと思うので、完成後に条例 PR 版のようなものをつくるのも良いと思います。

林氏) 泉南市では 10 年以上前から「泉南市こどもの権利に関する条例」を策定し、現在でも毎月、違う学校の子どもたちが集まって「せんなん子ども会議」を開催しています。不登校の子どもでも「ここなら来られる」という話を聞いたことがあり、同じように認知症条例も広く市民に興味を持ってもらえる内容になればと思いました。

永田氏) こどもとのコラボや、こども会議の場等で認知症条例を本当の意味で生かせる仕組みになればいいですね。

篠原氏) 子どもたちの純粋な気持ちが大人になっても生き続けてほしいと思います。まずは、自分の家族や身内や友達などの身近な人にやさしくできる子どもを育てていくこと、それが図の鉢植えになるのか、土や空気になると考えていました。

奥氏) 泉南カルタや泉南市「なんでやねん!すごろく」にヒントを得て、“認知症条例カルタ”等親しみやすい仕掛けを作るのも面白いと思います。

古谷氏) 伊藤さんが仰っていた緊急ショート予約について、直近で対応できる支援を行政でも検討して頂くなど声を反映させることができればと思いました。

永田氏) 切実な声に基づいて意見を集め制度に繋げていく、声を出しやすい仕組み作りも求められますね。

青木氏) 当事者の意見を生かしつつ、わかりやすい表現でまとめ上げてほしいと思います。

有本弥氏) 緊急ショート対応との両輪として、希望される方の入院できる体制づくりも進めていく必要があると感じました。

伊藤氏) 本人と家族が安心してゆっくりすごせる世の中になったら良いと思います。よろしくお願いします。

森井文氏) こういう活動に参加するのはつい最近のことですが、泉南市の人たちは夫のことをよく理解してくれている、と嬉しく思います。泉南市認知症条例がきっかけとなって、他市町村から府、国へとこの取り組みが広がることで、認知症の方が生活しやすくなれば良いな、と思います。

森井洋氏) これからも多くの方のサポートの中で、一日一日をしっかりと生活していきたいと思います。ありがとうございます。

中島氏) いくつものキーワードがありましたが、「いかに分かりやすく伝えるか」というところにこだわって、策定していきたいと感じました。認知症条例をどう市民に浸透することができるか、広げていけるかについて、泉南市なら取り組んでいくことができると思っています。

永田氏) 次回策定委員会開催は9月予定となります。ぜひ、皆さんも日常の中で条例のキーワードや「認知症の人とこんなことが出来たらいいな」ということ等を日常的に考えておいていただき、次回また新たなご意見を頂ければと思います。

西村) 委員の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。次回に向けて事務局でも本日の内容を基に発展させてまい

ります。

【閉会】